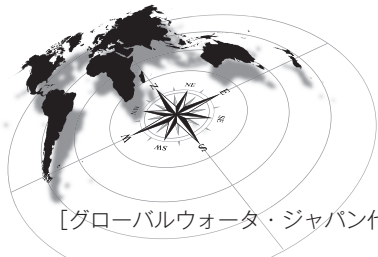




天皇陛下、水研究の足跡 ～水研究のメッセージをご公務に～



[グローバルウォーター・ジャパン代表 国連環境アドバイザー]



吉村 和就

5月1日から新元号「令和」となり皇太子・徳仁親王は、新天皇に即位された。

筆者は、世界水フォーラムについては京都で開催された第3回から第7回まで、また国連で開催された「水と災害に関する特別会合」、さらに「アジア・太平洋水サミット」「国際水協会 (IWA) 東京総会」など多くの国際会議に出席し、新天皇の「水に関する造詣の深さ」を直接拝聴してきた。誠に僭越ながらここに改めて「天皇陛下の世界に発信し続けてきた水研究の足跡」を振り返って紹介してみたい。

1. 国際的な活躍

水問題については、皇太子時代に学習院大学で「中世の瀬戸内海の水運」を研究なされ、さらに留学先の英国オックスフォード大学で「18世紀のテムズ川の水運」を研究、36歳だった1997年には「陸上交通と水上交通が、どのような補完関係にあったか研究を深めたい」と発言している。それから20年以上も水研究のメッセージを国内外に発信し続けている。国際舞台への転機は第3回世界水フォーラムであった。

1) 平成15年3月に名誉総裁としてご臨席になった「第3回世界水

フォーラム」の開会式(京都)において「京都と地方を結ぶ水の道—古代・中世の琵琶湖・淀川水運を中心として—」と題した記念講演をなされた。このフォーラムには約180カ国・地域から約2万5千人が参加、世界に広がる水不足や水質汚染、ますます深刻化する水災害の現状が報告された。

2) 平成18年3月にメキシコをご訪問になった際には「第4回世界水フォーラム」全体会合において「江戸と水運」と題した基調講演をなされ、特に利根川の東遷(江戸を洪水から守るために利根川の流を変えた)や干拓、江戸の水道(玉川、神田上水)構築に取り組んだ日本の歴史を紹介された。

3) 平成19年12月には「第1回アジア・太平洋水サミット開会式」(大分県別府市)において「人と水—日本からアジア太平洋地域へ—」と題した記念講演。

4) 平成20年7月にスペインをご訪問になった際には2008年「サラゴサ国際博覧会・水の論壇」シンポジウムにおいて「水との共存—人々の知恵と工夫—」と題した特別講演を行い、特にスペインの生んだ偉大な作家セルバンテスにちなみ「ドン・キホーテと風車」について講演、参加者から大きな拍手が寄せられた。筆者は帰路、陛下が講演で触れられたスペイン・セゴビヤの「ローマ水道橋」を視察、長期的な視野に立って水の安定供給を実現させたローマ人の構想力に感動した。

5) 平成21年3月にトルコ・イスタンブールで開催された「第5回世界水フォーラム」において「水とかわる—人と水との密接なつながり—」と題した基調講演を行った。

6) 平成24年3月にはフランス・マルセイユで開催された「第6回世界水フォーラム」において「水



▲皇太子殿下(当時)「第5回世界水フォーラム」でのご講演(2009年3月トルコ・イスタンブール。192カ国から3万2000人参加) 演題:「水とかわる—人と水との密接なつながり—」 江戸時代の利根川の治水・利水についての一コマ(筆者撮影、他の写真も)

と災害—津波の歴史から学ぶ—と題したビデオメッセージが上映された。特に陛下自身が撮影された東日本大震災と大津波の写真、さらに震災復興に懸命に取り組む日本人の姿を紹介され、会場から大きな拍手が湧き起った。

7)平成25年3月にはニューヨークで開催された第1回国連主催「水と災害に関する特別会合」において「人と水災害の歴史を辿る—災害に強い社会の構築のための手掛かりを求めて—」と題した基調講演をなされた。

8)平成27年4月には韓国・釜山市で開催された「第7回世界水フォーラム」において「人々の水への想いをかなえる—科学技術を通じた水と人との関わり—」と題したビデオメッセージが上映された。

9)平成27年11月にニューヨークで開催された第2回国連「水と災害に関する特別会合」において「人と水とのより良い関わりを求めて」と題した基調講演。

10)平成29年7月にニューヨークで開催された第3回国連「水と災害に関する特別会合」において「水に働きかける」と題したビデオメッセージが上映された。

11)平成30年3月にはブラジルで

開催された「第8回世界水フォーラム」の「水と災害」ハイレベルパネルにおいて「繁栄・平和・幸福のための水」と題した基調講演。12)平成30年9月には東京で開催された「第11回国際水協会(IWA)世界会議」において「水問題の大切さ、水関連災害への対応も国際社会が取り組むべき重要な課題である」と述べられた。参加者一同が非常に感激したことは、講演内容はもちろんのこと、前日までのフランス訪問にもかかわらず、皇太子殿下・妃殿下(当時)のご臨席を賜ったことであった(参加者は過去最高の98ヵ国から約1万人(うち日本人は48%))。

筆者は様々な国際会議や国連会合において天皇陛下のご講演を直接拝聴してきたが、共通して言えることは、①日本古来から、面々と連なる水に関する歴史や知恵を紹介し、世界に発信してきた。②講演資料(パワーポイントなど)には、必ず自ら撮影した写真、あるいは直接視察された内容が述べられている。③世界のあらゆる階層の人々に思いを馳せるお言葉がある。

このように天皇陛下の「水に対する真摯な姿勢、研究内容の深さ」

が世界中から集まった会議参加者やメディア関係者を感動させたのであった。

2. 天皇として水研究のメッセージをご公務に

天皇陛下は今年2月、59歳の誕生日を前にした会見で、「ライフワークとして長年携わった水問題(水災害、地球温暖化問題、貧困問題解決など)を即位後も公務の中に据える考えを示されている。

国内においても、国民の祝日である「みどりの日」「海の日」「山の日」「世界水の日」などの記念日、また日本で開催される国際会議、例えば令和元(2019)年8月横浜で開催される「第7回アフリカ開発会議」や、令和2(2020)年熊本で開催される「第4回アジア太平洋水サミット」(主要テーマ:持続可能な発展のための水～実践と継承～)などの機会を通じ、国際社会から高い評価を受けている天皇陛下の水に関するメッセージの発信を熱望している。陛下の国内外へのメッセージ発信は、日本にとっても世界にとっても、非常に意義のあることと確信している。

平成は「水災害が多発した時代」でもあったが、令和は「水問題解決の時代」でありたいと思う。



▲国際水協会(IWA)世界会議・東京総会2018(東京ビッグサイト、2018年9月16日～9月20日)皇太子殿下(当時)が水問題の大切さを英語で30分ご講演(左)開会式には皇太子ご夫妻がご臨席